

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部法律学科	職名 特任准教授	氏名 蔡 文高	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月 1 日	(授業科目：民俗学)平成 18 年度の学生授業評価アンケート評価を受け、内容をより分かりやすく伝えるため、パワーポイントや関連映像資料などを利用して、授業運営の改善活動を行なった。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
洗骨改葬の比較民俗学的研究	単著	平成 16 年 10 月	岩田書院		
死の儀法	共著	平成 20 年 3 月	ミネルヴァ書房	近藤功行、小松和彦、塩月亮子、山田慎也ほか	
論文					
福建省沿岸諸地域の洗骨改葬	単著	平成 15 年 6 月	「中国福建省福州及び泉州と沖縄の文化・社会の比較研究」(調査報告集)		123-143 頁
福建省西部の祖先祭祀 - 以長汀県蔡坊村為例	単著	平成 15 年 12 月	「文学・歴史伝統と人文精神」中国社会科学出版社		
浄化される祖先 - 南部中国漢民族の洗骨改葬儀礼 -	単著	平成 15 年 12 月	「アジア遊学」(特集・路地裏の宗教) 58 号		45-59 頁
沖縄葬文化の重層性について - 東南中国との比較から -	単著	平成 18 年 9 月	『民具研究』134		
その他					
書評「萩原秀三郎著」『鬼の復権』(2004年2月 吉川弘文館発行)	単著	平成 16 年 7 月	「民俗文化研究」第 5 号 民俗文化研究所		187-189 頁
洗骨改葬と客家の祖先観	単著	平成 17 年 6 月	国際アジア文化学会 2005 年度(第 14 回)大会 共通論題特別報告 於二松学舎大學		
名前に秘められている文化伝統 - 名づけ習俗についての日中比較	単著	平成 17 年 7 月	萩国際大学公開講座		
南部中国漢族の祖先祭祀	単著	平成 17 年 9 月	民族の会・東アジア民俗文化比較研究会 於山口大学		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
江西省南部地方の死者儀礼	単著	平成 17 年 9 月	京都・国際日本文化研究 センター		
死の場所と死生観 - 中国漢 族の従来死生観について の一考察	単著	平成 17 年 9 月	京都・国際日本文化研究 センター		
東南中国漢族の葬制と墓制	単著	平成 17 年 11 月	日本民具学会第 30 回年 会 於沖縄県立芸術大 学		
日本民俗学百年要略	単著	平成 18 年 3 月	「民俗学的歴史・理論與 方法」(周星主編)商務 出版社		
日本民俗学的特色及研究方 法	単著	平成 18 年 4 月	中国民俗学会第 6 次代 表大会 於北京・中央民 族大学		
市場経済化と祖先祭祀の復 興 東南中国の例を中心に	単著	平成 18 年 12 月	日本民俗学会第 826 回 談話会		
東南中国和沖縄的墓葬制比 較研究	単著	平成 19 年 5 月			
雲南大理白族地域の観音信 仰	単著	平成 19 年 10 月			
日本の山岳信仰及其有關研 究	単著	平成 20 年 1 月			
東南中国漢族の葬制	単著	平成 20 年 11 月			
中国と沖縄の洗骨改葬の比 較研究	単著	平成 20 年 11 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 7 年 6 月～現在に至る	日本民俗学会会員
平成 9 年 6 月～現在に至る	日本文化人類学会（元日本民族学会）会員
平成 15 年 3 月～現在に至る	中国民俗学会会員
平成 15 年 5 月～平成 16 年 4 月	仙人の会幹事
平成 16 年 7 月～現在に至る	日中人文社会学学会会員
平成 16 年 7 月～現在に至る	日中人文社会学学会理事
平成 16 年 7 月～平成 18 年 6 月	国際客家文化協会監事
平成 16 年 7 月～現在に至る	『客家與多元文化』（国際客家文化協会機関誌）編集委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	（国内共同研究）京都・国際日本文化研究センター共同研究「日本における「死の場所」と死生観の変遷に関する総合的研究」
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B）・（2）（「文化の伝播とその変容に関する中国福建省と沖縄における比較研究」）（研究分担者）
平成 18 年 7 月～現在に至る	国際客家文化協会理事

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部自治行政学科	職名 教授	氏名 橘川 俊忠	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育方法の実践例 戦後政治史講義にビデオ教材を導入した。		平成 17 年 4 月 10 日 ~平成 21 年 1 月 15 日	戦後政治史を講義するに当たって、戦争も戦後の知らない学生に当時の社会状況を実感的にとらえさせるために、当時のニュース映画のビデオを見せた。抽象的な歴史ではなく、具体的イメージを持たせる上で効果が会った。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価 学生の授業評価アンケート結果は概ね良好である			授業評価では、常に平均値以上の結果を得ている。特記事項の欄には、新しいものの見方を教えられたという記述が多く見られ、講義の狙いが達成されている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
結社としての全共闘	単著	平成 18 年 7 月	『結衆・結社の日本史』 (『結社の日本史 1』福 田アジオ編、山川出版)		
論文					
廟と村の関係	単著	平成 18 年 3 月	『中国江南地方沿海村落 民俗誌』(神奈川大学大 学院歴史民俗資料学研 究科)		115-122 頁
「非文字資料の体系化」に ついての理論的諸問題	単著	平成 20 年 3 月	『非文字資料研究の理論 的諸問題』神奈川大学 2 1 世紀 C O E プログラ ム研究推進会議		
その他					
格差社会と政治の可能性	単著	平成 19 年 11 月	『神奈川大学評論』(神 奈川大学広報委員会)58 号		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 6 年 5 月～現在に至る	政治思想学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部経済学科	職名 教授	氏名 香月 洋一郎	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
海人のむら民俗誌から (上)	共著	平成 16 年 3 月	歴史と民俗 20(平凡社)		167-198 頁
磁場としてのフィールド・ プロセスとしての情報	単著	平成 17 年 1 月	『環』2005 年冬号 藤 原書店 2005 年 1 月刊 所収		222-229 頁
海人のむらの民俗誌から (中)	単著	平成 17 年 3 月	『歴史と民俗 21 号 神 奈川大学日本常民文化 研究所刊 2005 年 3 月		75-98 頁
「集落景観分析への - 試 論」	単著	平成 17 年 12 月	『環境と景観の資料化と 体系化にむけて』神奈川 大学 21 世紀 COE プロ グラム研究推進会議刊		1-76 頁
風景としての情報	単著	平成 19 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム 「人 類文化研究のための非 文字資料の体系化」研究 推進会議		1-34 頁
神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究 のための非文字資料の体系 化」研究成果報告書「景観」 と「環境」についての覚書	共著	平成 19 年 12 月	「人類文化研究のための 非文字資料の体系化」研 究推進会議	香月洋一郎、高坂嘉孝、藤永豪	
その他					
フィールドでの記憶 1 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 5 月	「未来」440 号(未来社 刊)		36-44 頁
フィールドでの記憶 2 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 6 月	「未来」441 号(未来社 刊)		18-22 頁
フィールドでの記憶 3 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 7 月	「未来」442 号(未来社 刊)		14-19 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
フィールドでの記憶4 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 9 月	「未来」444号(未来社 刊)		24-31 頁
フィールドでの記憶5 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 10 月	「未来」445号(未来社 刊)		17-23 頁
フィールドでの記憶6 - 宮 本常一の景観写真から -	共著	平成 15 年 11 月	「未来」446号(未来社 刊)		20-26 頁
なにからどのように始める か	共著	平成 16 年 3 月	年報人類文化研究のた めの非文字資料の体系 化(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議)		59-61 頁
「残された声」がもたらす 豊穡		平成 16 年 12 月	東京外国語大学 21 世紀 COE「史資料ハブ地域 文化研究拠点」オーラ ル・アーカイブ班主催シ ンポジウム		
【講演】 「Japanese Black- smiths society and their traditions」		平成 17 年 9 月	Japan Association of Mutual Understanding on Sword and Blacksmith Culture Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (A C C U)		
【講演】 「日常生活のなかの笑害認 識」	単著	平成 18 年 8 月	立命館大学 21 世紀CO Eプログラム 神奈川 大学 21 世紀COEプロ グラム研究推進会議		
語るという行為の表と陰		平成 18 年 10 月	地域の自立 シマの力 下 コモンズ		
神奈川大学 21 世紀 COE プログラム調査研究資料 5 「澁澤写真」に見る 1935- 1936 年の喜界島	単著	平成 20 年 2 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 56 年 4 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	広島県安芸郡倉橋町町史調査委員会委員
平成 7 年 7 月～現在に至る	財団法人サントリー文化財団による「職人文化と近代化研究会」
平成 9 年 3 月～現在に至る	財団法人サントリー文化財団の「職人文化と近代化研究会」一員としてネパールの村落調査実施
平成 13 年 10 月～現在に至る	高知県四万十川流域保全振興委員
平成 14 年 3 月～現在に至る	「公開講座～土佐打刃物の今」(高知県土佐刃物連合協組合)で「土佐打刃物のあゆみ」講演
平成 14 年 10 月～現在に至る	信州大学山岳科学総合研究所顧問
平成 15 年 11 月～現在に至る	「折口信夫没後五十年記念公開講演会(主催慶應義塾大学文学部国文学研究室)にて」「ある大衆芸能の現在 - 猿まわしの復活を通して」講演

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

<p>所属 経済学部経済学科</p>	<p>職名 教授</p>	<p>氏名 河野 通明</p>	<p>大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)</p>
<p>I 教育活動</p>			
<p>教育実践上の主な業績</p>		<p>年月日</p>	<p>概 要</p>
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>日本史を経済から見直す形の前近代日本経済史の工夫</p> <p>自分を育てることを目的に掲げた史学系ゼミナール</p> <p>ゼミの工夫 甲府盆地・諏訪地方のフィールドワーク</p> <p>目の前の民具からどう情報を引き出すかの工夫</p> <p>「日本経済史」の工夫(1) 2択、3択質問で参加型授業</p>		<p>平成 5 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 3 月 31 日</p> <p>平成 5 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 3 月 31 日</p> <p>平成 5 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 3 月 31 日</p> <p>平成 6 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 3 月 31 日</p> <p>平成 15 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 3 月 31 日</p>	<p>従来の日本経済史は商業史へのすり替え、近代以降への偏重がある。これは中世以前に数字を含む経済史料が少ないためである。そこで古代・中世それぞれの時代を総体として復原し、そのなかで金(財貨)がどう流れるかを観察する方法をとり、税物が物流の主流を占める中世以前の日本経済史の復原に成功、学生に好評で、古代・中世は文字通り政(まつりごと)の時代で、織豊期を経て近世は政治の時代に変わるなど、歴史の大局的理解を国民として学ぶべき歴史として提起している。</p> <p>システム化された受験教育で育てられた学生は、好奇心が萎え、何事も受け身で思考力が欠如している。そこで、好きな歴史で頭脳パソコンを鍛え、自分を取り戻そうと呼びかけ、歴史の基礎知識と漢文を徹底的にたたき込んだ上で、好きなテーマで資料からどれだけ多くの情報を引き出すかに取り組みせ、観察力・分析力・文章力・提案力を鍛えるプログラムを実施している。</p> <p>ゼミ創設以来、夏合宿には甲府盆地と諏訪地方の隔年のフィールドワークを実施している。富士見高原研修所での3泊4日の合宿で、25000分の1地図8~9枚を自分で買って持参、合宿所で貼り合わせ、扇状地・河岸段丘の読み取り、新府城・信玄堤・諏訪大社などのポイントや城郭や三日市など歴史地名探して地域全体の立地、位置関係を確認、空中写真の実体視で地形を確認、『信長公記』で武田氏権力の崩壊過程を読み込み、3日目にバスをチャーターして現地見学、4日目に観察レポートの指導を受けて下書き、帰宅後写真を取り込んだレポートを完成させて提出させる。合宿所では朝9時から夜10時半まで学習、フィールドワークではアカマツ・カラマツ・スギ・ヒノキ・クルミの見分け、北米プレートとユーラシアプレートの境目、地球の繋ぎ目を確認、目に見えるものすべてを観察する。学生の感想は、こんなに勉強したことは無かった、武具や合戦屏風の実物が見られてよかった、観察の大切さを知ったと好評である。</p> <p>歴史民族資料学研究所大学院の民具資料学特論では、既往の学説をなぞることをやめ、白紙の頭で目の前の民具からどう情報を引き出すかの工夫を、農具や絵画資料を題材に演習形式で取り組ませている。</p> <p>大教室授業では学生は受け身になりやすいが、問題点ごとに2択、3択質問で学生の判断を求めて学生に授業に参加している意識を持たせている。これは期末テスト答案での採点外の感想でも好評価を得ている。</p>

教育実践上の主な業績	年月日	概要
「日本経済史」の工夫 (2) 「泣き言書いたら 40 点減点」	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	数年前から日本経済史の期末テスト答案に「卒業がかかっているのに単位をぜひ」など泣き言書いたら 40 点減点」と刷り込んでいる。授業中では「テレビをにぎわず食品偽装の問題は他人事ではない。勉強不足の白紙答案に合格点を与えたなら、神奈川大学という企業が学生という商品に偽装表示をして世間に送り出したことになる。こんな反社会的行為は今の時代では許されない。この時代の変化を直視して、教員も学生も引き締まって行こう」と呼びかけている。
F Y S の工夫 2 施設見学を施設探検に	平成 18 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 7 月 31 日	学内の施設案内は、テキストでは教員の引率が想定されているが、24 人となるとよそ見して遅れて付いてくる学生が出るのが必定、また説明を聞く一方では集中力がもたないことは明らか。そこでデジカメで学内施設を撮って回り、A3 プリント 2 枚に 24 場面を掲載して、それぞれチェックボックスを配して、班行動で確認したらチェックマークを入れ、揃ったら提出させることにした。学生の評判は上々、同僚の先生からの依頼でいくつかのクラスで使ってもらっている。
F Y S の工夫 6 「社会人」ではなく「会社人」	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 1 日	集中できない学生に「学生の本分」から説教しても反発を買うのは必定、「社会人のルールを身につけよ」といっても、「言われんでも分かっている」と反発する。学生は会社に入ることに目がいて、その先が見えていない。そこで「会社に入って何年か経つと部下ができて上司と呼ばれるようになる。上司の条件は公平性と降りかかる問題に対して具体的な解決策を提示できる提案力だ」と説明し、提案力を鍛えようと呼びかけた。F Y S の運営そのものを教材として、その具体的な対案づくりを F Y S の主題と位置づけた。その結果、ざわついていても「業務連絡、業務連絡」と呼びかけると集中する習慣が出来上がった。
F Y S の工夫 3 6 人班を 4 人班に	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	友人作りを重視して初年度から班編制でスタートしたが、06 年度はクラスを 4 つに分けて 6 人班体制とした。07 年度もこれを継承して 6 人班体制をとったが、プレゼンテーションの取り組みで、何もしない学生が各班にいることに気づいた。そこでその学生を叱るまえに、6 人班体制そのものに問題があると考え、08 年度もこれを継承して 4 人班、6 班体制をとった。4 人ならプレゼン大会に向けて遊んでる暇はない。各班おおむねいい協力体制が組めて、プレゼンテーション大会は成功した。
F Y S の工夫 5 運営方法の工夫を教材に。納得ずくで進める方法の確立	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	FYS 担任としての河野の持ち味は何かと問い直した結果、フィールド調査者として常に観察結果にもとづいて工夫することにあると結論、F Y S の運営も工夫の過程を学生に見せて「だからこうやってみよう、納得ですか」と確認しながら進めた。これで学生は信頼感を得て、最後は記念写真で締めくくることができた。
F Y S の工夫 4 「質実剛健・積極進取」の展開	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	「質実剛健・積極進取」は説明の余地のない立派な言葉。「創業者の言葉ですよ」「はい、そうですか」で終わってしまう。そこで学生に「この昭和戦前語を 21 世紀のわれわれ語に翻訳しよう」と呼びかけ、質実剛健 = 努力家タイプの人、積極進取 = 前向き思考と翻訳し、神大卒の先輩たちが社会の中堅部分で活躍していることを確認し、河野の持ち味が工夫の人であること、クラスに中国人・韓国人学生がいることを折り込んで、2008 F Y S 河野クラス 24 の未来の姿として、「これからの日本・中国・韓国を中堅部分でしっかり支える努力家タイプで前向き思考の工夫の人」という標語にまとめた。

教育実践上の主な業績	年月日	概要
F Y Sの工夫 7 「ポイントを貯めよう」 成績評価の見直し	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	委員会から提示された成績評価の統一基準は、(1) 基準点を 80 点とする。(2) 欠席は 10 点減点、30 分以内遅刻 5 点減点、31 分以上遅刻 10 点減点。(3) 加点は各自で。これに対して抗議した。(1) 基準点を 60 点とすべき。(2) 欠席は 10 点減点はきつすぎるし、31 分以上遅刻 10 点減点は頑張って出ようという意欲をそくもので承伏しかねる。この結果かなり時間を経て採点は担任に任せるといふ委員会通達を得た。そこで(1) 基準点を 60 点。(2) 無断欠席 - 4 点、連絡欠席 - 2 点、31 分以上遅刻 - 1 点、30 分以内遅刻は減点なし。(3) 出席、発表、提出物ごとに加点、「ポイントを貯めて 100 点取ろう!」と呼びかけた。この提案をクラスで了承、取り組みは成功で落伍者を出さずに済んだ。
F Y Sの工夫 8 テキストの「プレゼン大会採点表」の見直し	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	テキスト所載の「プレゼン大会採点表」は、4 項目、各 25 点で合計 100 点の表である。07 年度はこれを使って問題を感じたので、08 年度はこの表の問題点を見つけ、改善案を作ることを教材とした。25 点で採点すると甘い人、辛い人で点差が出て、甘い人の点数で大勢が決まるという不公平が起こる。ここに気づかせて正確なのは上、中、下の 3 段階評価であることを導き、学生の意見を引き出して評価項目を増やし、6 項目 18 点満点の評価表を作成、これを使って公平な結果を得た。
F Y Sの工夫 1 神奈川大学の規模の効果	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	新入生を迎えて大事なものは、いい大学に入ったと安心感を持ってもらうこと、これが彼ら彼女らの第一歩を踏み出す力となる。大学の善し悪しは偏差値だけで決まる訳ではない。大学を自分を鍛える道場、トレーニングセンターとして捉えた時、大学の規模が物を言う。神奈川大学は学生ほぼ 2 万人の大規模校、学生が多いと専任教員が増え、カリキュラムが豊になって選択肢が増える。学問の大型店舗である。予算が大きく図書館の蔵書 100 万冊、学生サービスも教職関係の専任教員 9 人、非常勤 10 数人、職員 3 人。就職課は専任職員 9 人、契約・派遣・嘱託 3 人、アルバイト 7 人、企業からの就職アドバイザー 5 人で就活サポートに当たっている。学生が多いとサークル活動が盛ん、あなた達はいい大学に入ったね、と呼びかけている。教員・職員数は各部署に取材して確認した。
「日本経済史」の工夫 (3) 出席管理システム下での欠席減点方式	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	日本経済史の授業では、長らく「出席はとらない。期末テストのみで評価」という方式をとってきたが、数年前、出席管理システムの導入以後、学生から「カードチェックは必要ですか?」という質問とか「1 度も授業に出ていない学生が受験しているのは不公平」といった意見が出されるようになった。そこで 2008 年度日本経済史で、欠席多数者に対する減点方式を提案、「13 回中 8 回欠席で - 10 点、9 回で - 20 点、10 回で - 30 点、11 回以上 - 40 点」という方式の了承を取った。シラバスには掲げていなかったもので、授業内で何度もプリントで告知した。2009 年度からはシラバスで公示した。学生の評判は上々であった。
「日本経済史」の工夫 (4) 発言にポイント加点	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	学生の参加意識を高めるため、2008 年度から、質問に対する答えをした学生にはポイント加点を与え、期末テストの成績に加点する方式を採用した。授業後学生が教卓に来て表に書き込む自主申告方式で、期末テスト答案での採点外の感想でも好評価を得ている。
2 作成した教科書、教材		なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2008 年度 F Y S の授業評価	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 30 日	授業に対する学生自身の評価では、3 項目中 5 段階評価で平均値に対して出席で 0.5、意欲的に取り組んだで 0.6、自主学習で 0.2 ポイント上回った。教員に対する評価では、13 項目中 5 段階評価で平均値に対してマイナスは難易度 - 0.2 ポイントのみ。これはカリキュラムが十分消化されていて難しく感じなかった結果でプラス評価である。その他 12 項目では 0.4～0.8 ポイント上回っており、ねらい・達成目標の提示、話し方の明確さ、板書のわかりやすさと総合評価で 0.8 ポイント、創意工夫と熱意で 0.7 ポイントと平均を大きく上回った。
2008 年度、1 限日本経済史の授業評価	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	1 限の日本経済史の教員に対する評価では、13 項目中 5 段階評価で平均値に対してマイナスは難易度 - 0.7 ポイント。これはカリキュラムが十分消化されていて難しく感じなかった結果で大きなプラス評価である。もう 1 つのマイナスは課題を適切に指示したの - 0.1 ポイントで、これは宿題を出さない方針の授業なので無関係。その他 11 項目では 0.1～0.8 ポイント上回っており、質問・意見に配慮したが 0.8 ポイント、話し方の明確さ、創意工夫で 0.7 ポイント、熱意で 0.6 ポイント、興味・関心もてた、資料は役立った、総合評価が 0.5 ポイントと平均を大きく上回った。
2008 年度、6 限日本経済史の授業評価	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 7 月 31 日	6 限の日本経済史の教員に対する評価では、13 項目中 5 段階評価で平均値に対してマイナスは難易度 - 0.7 ポイント。これはカリキュラムが十分消化されていて難しく感じなかった結果で大きなプラス評価である。もう 1 つのマイナスは課題を適切に指示したの - 0.2 ポイントで、これは宿題を出さない方針の授業なので無関係。シラバスに基づいていたが - 0.2 ポイントで、これは工夫を重ねてシラバスを書き換えながら進める方式の結果である。その他 10 項目では 0.4～0.9 ポイント上回っており、創意工夫と質問・意見に配慮したが 0.9 ポイント、話し方の明確さが 0.8 ポイント、興味・関心もてた、熱意を感じた、資料は役立ったで 0.6 ポイント、総合評価が 0.5 ポイントと平均を大きく上回った。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 教員養成カリキュラム検討専門委員会における教員免許更新講習プランの検討	平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	更新講習の地歴部門について、単なる教科の最新知識の講義ではなく、大学に来て受けて良かったと思える研究の最前線に触れること、にもかかわらず単なる文化講座ではなくあくまで更新講習として教科と不即不離の内容をもつこと、受け身の座学でなく、参加型の演習で宿題も課すハードなプログラムで、終わったあとで達成感の得られる内容を目指して検討中である。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
民具から古代をさぐる	共著	平成 19 年 9 月	『信濃国の考古学』雄山閣	川崎保、福島正樹、宮島義和、倉澤正幸、原田和彦、山崎信二、桜井秀雄、牛山佳幸、河野通明	226-233 頁
農耕と牛馬	共著	平成 21 年 1 月	『人と動物の日本史』(吉川弘文館)『2 歴史のなかの動物』	中澤克昭編、中込律子、岡崎寛徳、河野通明、川添裕、高橋美貴、中園成生、永松敦、羽澄俊裕	95-126 頁
論文					
アジアの犁の分類法および系譜に関する諸説の再検討	単著	平成 15 年 4 月	『商経論叢』(神奈川県経済学会) 38, (4)		29-45 頁
南西諸島犁の力学的特性 - 下田博之第二論文の再検討 -	単著	平成 15 年 6 月	『民具マンスリー』(神奈川県日本常民文化研究所) 36, (3)		9-25 頁
「絵引はつくれぬものか」 - 歴史への視点 -	単著	平成 15 年 9 月	『民具研究』(日本民具学会)(128)		24-30 頁
民具という非文字資料から日本列島の古代多民族社会を復原する試み	単著	平成 15 年 12 月	神奈川県 COE プログラム研究推進会議「非文字資料研究」第 2 号		26-28 頁
民具の犁調査にもとづく大化改新政府の長床犁導入政策の復原	単著	平成 16 年 1 月	『ヒストリア』(大阪歴史学会)(188)		194-221 頁
長谷川雪旦筆「四季耕作図屏風」の基礎的検討	単著	平成 16 年 2 月	『国立歴史民俗博物館研究報告』(117)		269-302 頁
滋賀県川田川原田遺跡出土犁の伝来事情とその後	単著	平成 16 年 3 月	『商経論叢』(神奈川県経済学会) 39, (4)		1-13 頁
東北地方の木摺臼の全域調査 - 身体技法から日本列島の民族的多様性を検出する試み -	単著	平成 16 年 3 月	「年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化」(神奈川県 21 世紀 COE プログラム)(1)		36-45 頁



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
東北地方の引手なし馬鍬	単著	平成 16 年 4 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 37, (1)		15-21 頁
在来農具の分布から見た東 北地方	単著	平成 16 年 12 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム) (2)		94-109 頁
民具の犁から四国の古代を 復原する	単著	平成 16 年 12 月	『民具集積』(四国民具 研究会)(10)		7-40 頁
7 世紀出土 - 木犁へら長床 犁についての総合的考察	単著	平成 16 年 12 月	『商経論叢』(神奈川大 学経済学会) 40, (2)		125-158 頁
滋賀県中畑遺跡出土平安時 代犁の検討	単著	平成 17 年 3 月	『商経論叢』(神奈川大 学経済学会) 40, (4)		65-76 頁
千石通しの成立と伝播 (一)	単著	平成 17 年 10 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 38, (7)		1-16 頁
千石通しの成立と伝播 (二)	単著	平成 17 年 11 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 38, (8)		14-19 頁
万石通しの発明と伝播 (一) 近世農書・明治農具 絵図から見た万石通し	単著	平成 18 年 9 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 39, (6)		1-17 頁
周防地方の民具から見た犁 耕伝来の 2 つの波	単著	平成 18 年 9 月	『商経論叢』(神奈川大 学経済学会) 42, (2)		15-35 頁
万石通しの発明と伝播 (二) 江戸での発明、大 坂への伝播の詳細	単著	平成 18 年 11 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 39, (8)		13-23 頁
遣唐使将来唐代犁の復原と 導入時期の特定	単著	平成 19 年 2 月	『歴史と民俗』(神奈川 大学日本常民文化研究 所)(23)		53-80 頁
『犁の形態比較から東アジ アの民族移動に迫る』のね らい	単著	平成 19 年 3 月	『図像・民具・景観 非 文字資料から人類文化 を読み解く』(神奈川大 学 21 世紀 COE プログ ラム研究推進会議)		152-153 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
日本の犁に見られる朝鮮 系・中国系とその混血型	単著	平成 19 年 3 月	第 2 回国際シンポジウ ム報告書『図像・民具・ 景観 人類文化研究の ための非文字資料の体 系化』(2)		182-197 頁
非文字資料研究・身体技法 研究の河野なりの受け止め 方と調査の概要 神奈川大 学 21 世紀 COE プログラ ムへの参加にあたっての基 本姿勢	単著	平成 20 年 3 月	『身体技法・感性・民具の 資料化と体系化』(神奈 川大学 21 世紀 COE プ ログラム研究推進会議)		97-131 頁
身体技法の違いにもとづく 古代日本列島の民族分布の 復原 東北地方の木摺臼調 査からの古代日本列島の民 族分布復原への見通し	単著	平成 20 年 3 月	『身体技法・感性・民具の 資料化と体系化』(神奈 川大学 21 世紀 COE プ ログラム研究推進会議)		133-195 頁
民具という非文字資料の 体系化のための在来犁の比 較調査 「民具からの歴史 学」の有効性の追究と方法 論確立の試み	単著	平成 20 年 3 月	『身体技法・感性・民具の 資料化と体系化』(神奈 川大学 21 世紀 COE プ ログラム研究推進会議)		197-254 頁
神奈川大学 21 世紀 COE プログラムにおける「非文 字資料の体系化」とは何か	単著	平成 20 年 3 月	『非文字資料研究の理論 的諸問題』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラ ム研究推進会議)		49-71 頁
福岡県の在来犁 民具から 見た 6~7 世紀の福岡県域	単著	平成 20 年 5 月	『商経論叢』(神奈川大 学経済学会) 44, (1)		
高校教科書にみる千石通 し・万石通し	単著	平成 20 年 10 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 41, (7)		1-17 頁
高校教科書にみる江戸時代 の農具	単著	平成 20 年 11 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 41, (8)		12-22 頁
その他					
民具という非文字資料から 日本列島の古代多民族社会 を復原する試み	単著	平成 15 年 12 月	『非文字資料研究』(神 奈川大学 21 世紀 COE プログラム)(2)		26-28 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
菅江真澄の挿絵に粉本があ った?	単著	平成 18 年 1 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 38, (10)		21-22 頁
なぜ「道具」ではなく「民 具」なのか	単著	平成 18 年 3 月	『非文字資料研究』(神 奈川大学 21 世紀 COE プログラム)(11)		14-15 頁
完形品だった千石通し登呂 B	単著	平成 18 年 4 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 39, (1)		24 頁
犁の比較民具学 東アジア の民族移動	単著	平成 18 年 12 月	『非文字資料研究』 14		17 頁
石臼、臼、えぶり、鎌、碓、 犁、杵、首木、鞍、鍬、四 季耕作図、鋤、踏鋤、馬鍬、 耨摺臼	共著	平成 19 年 3 月	『歴史考古学大辞典』 (吉川弘文館)	小野正敏ほか編	
『農具便利論』の鍬図の柄 はなぜ短いか	単著	平成 19 年 3 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 39, (12)		17 頁
犁、鋤、鍬、脱穀・調製、 日本の農具	共著	平成 19 年 6 月	『歴史学事典』第 14 巻 「ものとわざ」(弘文堂)	加藤友康編	
『農具便利論』で変身した 関東のエンガ	単著	平成 20 年 8 月	『民具マンスリー』(神 奈川大学日本常民文化 研究所) 41, (5)		20-21 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 37 年 4 月～現在に至る	大阪歴史学会会員
昭和 37 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	近畿民具学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	日本民具学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	近畿民具学会常任幹事
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本民具学会評議員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	寺院史研究会会員
平成元年 11 月～現在に至る	近畿民俗学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	関西近世考古学研究会会員
平成 10 年 10 月～現在に至る	日本民具学会『民具研究』編集委員長
平成 10 年 10 月～現在に至る	日本民具学会理事

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部経済学科	職名 教授	氏名 佐野 賢治	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Ethnical Acceptations of the Ksitiganbha Belief- on the Afterlife Concepts of Asian Peoples.	単著	平成 16 年 3 月	“ Cultural diversity and Common Values ” Korean Na- tional Commission for UNESCO.		140-160 頁
論文					
民俗学の現状	共著	平成 16 年 1 月	『国学院雑誌』Vol105-1		32-67 頁
体験と経験 - 体と心の “ふ るさと” -	単著	平成 16 年 2 月	『少年期に必要な体験活 動と指導のあり方』国立 高遠少年自然の家		
非文字資料と地域社会 - 福 島県只見町の民具保存活用 運動 -	単著	平成 16 年 3 月	年報『人類文化研究のた めの非文字資料の体系 化』1		159-168 頁
”遊びから”ゲーム”へ - 個 別化する子供文化 -	単著	平成 17 年 10 月	『野外文化教育』第 5 号 野外文化教育学会		34-40 頁
文化情報発信システムとし てのインターネット博物館 - 大学・地域博物館の連携 を中心にして -	単著	平成 18 年 3 月	年報『人類文化研究のた めの非文字資料の体系 化』3		1-16 頁
職人巻物研究事始	単著	平成 20 年 3 月			1-7 頁
「地域研究と情報学の提携 - 只見町インターネット・ エコミュージアムノ可能 性」	単著	平成 20 年 3 月	『地域情報学の構築』		1-8 頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 49 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 49 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会理事
昭和 51 年 10 月～現在に至る	財団法人農村文化研究所研究員
昭和 52 年 9 月～現在に至る	日本民具学会会員
昭和 52 年 9 月～現在に至る	日本民具学会理事
昭和 54 年 4 月～現在に至る	愛知大学総合郷土研究所研究員
昭和 56 年 4 月～平成 15 年 11 月	国立民族学博物館国内資料調査員
昭和 57 年 6 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	松戸市立博物館資料評価委員会委員
平成 8 年 9 月～現在に至る	斎田茶文化振興財団評議員
平成 10 年 4 月～現在に至る	我孫子市文化財保護委員会審議員
平成 11 年 9 月～現在に至る	国際納西族東巴文化学会会員
平成 11 年 9 月～現在に至る	国際納西族東巴文化学会理事
平成 12 年 5 月～現在に至る	社団法人青少年交友協会評議員
平成 12 年 9 月～現在に至る	日本宗教学会会員
平成 12 年 9 月～現在に至る	国際彝族学会会員
平成 12 年 9 月～現在に至る	野外文化教育学会会員
平成 12 年 9 月～現在に至る	日本宗教学会理事
平成 12 年 9 月～現在に至る	国際彝族学会理事
平成 12 年 9 月～現在に至る	野外文化教育学会常任理事
平成 13 年 6 月～現在に至る	アジア民族文化学会会員
平成 13 年 6 月～現在に至る	アジア民族文化学会理事

年月	内 容
平成 15 年 4 月～現在に至る	文化庁文化審議会専門委員
平成 15 年 10 月～平成 17 年 3 月	第 19 期日本学術会議研究連絡委員会委員
平成 15 年 11 月～現在に至る	日本芸術文化振興会専門委員
平成 16 年 1 月～現在に至る	第 6 期中国民族学会会員
平成 16 年 1 月～現在に至る	第 6 期中国民族学会海外理事
平成 16 年 4 月～平成 18 年 9 月	日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本学術会議連携会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部経済学科	職名 教授	氏名 田上 繁	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
歴史史料の調査		平成 15 年 6 月 20 日 ～平成 15 年 6 月 23 日	ゼミ生の希望を採り入れ、瀬戸内海真鍋島の真鍋禮 三家に伝来する歴史史料の調査を実施し、学生の歴史教育と地域住民との交流を図った。
調査合宿の実施		平成 16 年 6 月 4 日 ～平成 16 年 6 月 7 日	ゼミ生を中心に瀬戸内海真鍋島の真鍋禮三家所存文書 の調査合宿を行った。
調査合宿の実施		平成 17 年 6 月 24 日 ～平成 17 年 6 月 27 日	ゼミ生を引率して瀬戸内海真鍋島の真鍋禮三家所存 文書の調査を実施した。例題のゼミ生参加した 9 年間の真鍋家文書調査を成果として、本年度ゼミ生が中心となり『岡山県笠岡市真鍋島 真鍋禮三家文書目録』をまとめた。
調査合宿の実施		平成 18 年 12 月 9 日 ～平成 18 年 12 月 11 日	2006 年 12 月 9 日～11 日(2泊3日) ゼミ生・学芸員課程履修学生の参加により、京都大山崎離宮八幡宮の歴史史料(古文書)調査を行い、調査合宿を経験させるとともに、その意義を学ばせた。
古文書の調査		平成 19 年 6 月 22 日 ～平成 19 年 6 月 25 日	石川県輪島市の古文書所蔵者の家へ学芸員履修学生を引率し、文化資料としての古文書の調査を体験させた。
ゼミ合宿の実施		平成 19 年 11 月 23 日 ～平成 19 年 11 月 26 日	瀬戸内海真鍋島における真鍋禮三家所蔵文書の調 査にゼミ生を参加させ、瀬戸内の社会経済史についての学習を行った。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『日本地域社会の歴史と民俗』	共著	平成 15 年 9 月	雄山閣		55-96 頁
中世・近世土地所有史の再構築	共著	平成 16 年 10 月	青木書店		213-243 頁
紀州小山人文書	共著	平成 17 年 4 月	日本評論社		
沼津市史 通史別編 漁村	共著	平成 19 年 3 月	沼津市	山口徹 岩田みゆき	
図説 伊東の歴史	共著	平成 21 年 3 月	伊東市教育委員会		
論文					
近世神社領における三つの石高の性格 - 大山崎離宮八幡宮を素材にして -	単著	平成 15 年 4 月	『商経論叢』38-4		37-48 頁
近世伊豆国伊東地域における山林利用について	単著	平成 16 年 3 月	『伊東市史研究』4		47-76 頁
近世神社領の土地管理組織 - 大山崎離宮八幡宮領を事例として -	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学日本常民文化研究所論集『歴史と民俗』20(平凡社)		7-48 頁
渋江公昭家文書目録(一)	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科		
疋田家文書目録(二分冊の一・二分冊の二)	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学日本常民文化研究所編		
大山崎離宮八幡宮領における神田管理と若衆中	単著	平成 17 年 3 月	2002 年度～2004 年度日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」研究成果報告『山城国大山崎荘の総合的研究(第 2 次)』所収		57-68 頁
時国健太郎家文書目録(二分冊の一・二分冊の二)	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学日本常民文化研究所編		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
渋江公昭家文書目録(二)	単著	平成 19 年 3 月	神奈川大学大学院歴史 民俗資料学研究科		
『高度専門職学芸員養成 - 大学院における養成プロ グラムの提言 - 』	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		
検地絵図を読み解く 加賀 藩の検地を事例として	単著	平成 21 年 3 月	『年報 非文字資料研 究』 神奈川大学日本常 民文化研究所 非文字 資料研究センター(5)		95-111 頁
その他					
神奈川大学市民大学講座		平成 15 年 5 月	神奈川大学日本常民文 化研究所主催		
歴史民俗資料学研究科開設 10 周年記念講座(後期)		平成 15 年 10 月	歴史民俗資料学研究科 主催		
第 7 回常民文化研究講座		平成 15 年 11 月	神奈川大学日本常民文 化研究所主催		
歴史民俗資料学研究科	単著	平成 15 年 12 月	非文字資料研究』2、神 奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会 議		
『石川県輪島市町野町牛尾・ 伏戸区有文書目録』		平成 16 年 3 月	輪島市教育委員会・神奈 川大学日本常民文化研 究所編		
中国雲南省麗江調査記 - 東 巴文化の今昔 - 東巴經典と 現代に伝わる原初的な紙製 法	単著	平成 16 年 6 月	非文字資料研究 4・神奈 川大学 21 世紀 COE プ ログラム研究推進会議		
『疋田家文書目録』(二分 冊の一・二分冊の二)		平成 17 年 3 月	神奈川大学日本常民文 化研究所編		
非文字資料としての加賀藩 検地絵図を読み解く	単著	平成 17 年 6 月	『非文字資料研究』 8・神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		
『時国健太郎家文書目録』 (二分冊の一・二分冊の二)		平成 18 年 3 月	神奈川大学日本常民文 化研究所編		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
随想「古文書返却の旅に同 行して」		平成 18 年 3 月	『神奈川大学評論』53		179-182 頁
「人類文化研究のための非 文字資料の体系化」		平成 18 年 5 月	『日本歴史』696 号		38-41 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 59 年 3 月～現在に至る	歴史学研究会会員
昭和 59 年 3 月～現在に至る	歴史学研究会会員
昭和 60 年 3 月～現在に至る	神奈川地域史研究会会員
昭和 60 年 3 月～現在に至る	神奈川地域史研究会常任委員
昭和 60 年 3 月～現在に至る	神奈川地域史研究会会員
昭和 63 年 4 月～現在に至る	神奈川地域史研究会常任委員
平成 3 年 1 月～現在に至る	静岡県沼津市史編集専門委員会委員
平成 3 年 10 月～現在に至る	神奈川大学市民大学講座「海からみた日本文化」の一講師を担当し、「近世の鯨と鯨猟民 - 紀州鯨猟を中心として - 」を講演
平成 5 年 1 月～現在に至る	和歌山県民大学講座「熊野古座町、歴史と風土 海・山・川 人のくらし」の一講師を担当し、「西向小山家文書と近世熊野の海の民」を講演（於和歌山県東牟婁郡古座町）
平成 5 年 10 月～現在に至る	史学会会員
平成 6 年 7 月～現在に至る	神奈川大学日本常民文化研究所 時国家調査 10 周年記念シンポジウム「日本海世界と北陸」の一報告者として、「加賀藩の検地 - 領主の検地と村の検地 - 」を報告
平成 6 年 10 月～現在に至る	横浜市民講座「歴史と民俗」の一講師を担当し、「上総道学と地域農書」を講演
平成 8 年 6 月～現在に至る	神奈川大学市民大学講座「歴史のなかの庶民像 - 歴史史料をよみなおす - 」の一講師（及びコーディネイター）を担当し、「高度な測量技術をもった村人たち」を講演
平成 9 年 6 月～現在に至る	第 1 回常民文化研究講座（神奈川大学日本常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 9 年 7 月～現在に至る	神奈川大学市民大学講座「新しい日本歴史像をさぐる - 考古・民俗・歴史学からの提言 - 」の一講師（及びコーディネイター）を担当し、「近世の年貢と年貢率」を講演
平成 9 年 8 月～現在に至る	愛知県鳳来町で開催された「戦国・織豊期研究会」において、「近世の免に関する一考察」を発表
平成 10 年 6 月～現在に至る	第 2 回常民文化研究講座（神奈川大学日本常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 10 年 7 月～現在に至る	日本民俗学会会員
平成 10 年 11 月～現在に至る	第 2 回常民文化研究講座（神奈川大学日本常民文化研究所主催）の古文書修復実習補講のチーフ講師を担当
平成 11 年 4 月～平成 17 年 4 月	静岡県伊東市史編集委員会委員

年月	内 容
平成 11 年 6 月～現在に至る	第 3 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 11 年 11 月～現在に至る	横浜市民講座「歴史と民俗Ⅱ」の一講師を担当し、「近世の石高と年貢」を講演
平成 12 年 6 月～現在に至る	第 4 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 13 年 3 月～現在に至る	平成 12 年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会（於博物館明治村）において「歴史資料の修復保存」を講演
平成 13 年 3 月～現在に至る	古文書修復講習会（敦賀短期大学地域交流センター主催）において古文書修復実習の講師を担当
平成 13 年 6 月～現在に至る	第 5 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 14 年 3 月～現在に至る	古文書修復講習会（敦賀短期大学地域交流センター主催）において古文書修復実習の講師を担当
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本学術研究振興資金「山城国大山崎荘の総合的研究」の研究メンバーとして参画（現在継続中）
平成 14 年 11 月～現在に至る	第 6 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 14 年 12 月～現在に至る	神奈川県立市民大学講座「古文書講読講座」の一講師を担当
平成 15 年 3 月～現在に至る	古文書修復講習会（敦賀短期大学地域交流センター主催）において古文書修復実習の講師を担当
平成 15 年 5 月～現在に至る	神奈川県立市民大学講座「古文書講読講座」の一講師を担当
平成 15 年 10 月～現在に至る	歴史民俗資料学研究所開設 10 周年記念講座（後期）「この”クニ”のかたちを考える」の一講師を担当
平成 15 年 11 月～現在に至る	第 7 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 16 年 6 月～現在に至る	伊東市史市民講座「古文書で読む伊東の歴史」チーフ講師として 2 回分講演を担当する。
平成 16 年 11 月～現在に至る	第 8 回常民文化研究講座（神奈川県立常民文化研究所主催）の古文書修復実習のチーフ講師を担当
平成 16 年 11 月～現在に至る	神奈川県立市民大学講座「古文書講読講座」の講師を担当
平成 17 年 4 月～現在に至る	静岡県伊東市史編集委員会副編集委員長
平成 17 年 11 月～現在に至る	伊東市史市民講座「江戸時代の伊東 - 伊東湊が結びつけるもの - 」を講演
平成 17 年 12 月～現在に至る	神奈川県立市民大学講座「古文書講読講座」の講師を担当

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部経済学科	職名 教授	氏名 田島 佳也	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 流通史(前期)		平成 20 年 5 月 ~平成 20 年 7 月	概念図化したプリントを配布して、理解度を増すように努めた。だが、授業のときは必ずプリントを持参するように指導したが、殆んどの学生はプリンを持参して来ず、プリントの配布は多くの場合、徒勞に帰した。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
北海道における北前船主・ 右近家、中村家の活躍と残 像など	共著	平成 16 年 12 月	『北前船から見た地域 史像』(第 6 回「西回り」 航路フォーラムの記録) 福井県河野村		13-95,259-260 頁
論文					
「明治九年海産収穫高調爾 志郡三冊之内一、二、三」 (『地租創定関係文書』)の 紹介と解題	共著	平成 15 年 4 月	神奈川大学経済学会『商 経論叢』38-4		97-123 頁
場所請負の歴史的課題	共著	平成 15 年 7 月	歴史科学協議会歴史評 論		39-50 頁
「鮮漁」図のあれこれ		平成 15 年 12 月	非文字資料研究 No.2		16-17 頁
漁撈研究のいま④ 近世期 における蝦夷地の漁業	共著	平成 16 年 3 月	Arctic Circle 第 50 号		4-9 頁
道南西海岸漁村の「場所請 負制」試論—明治初期の爾 志郡(乙部村・熊石村)を 事例に—	共著	平成 16 年 6 月	漁業経済研究・漁業経済 学会、第 49 巻第 1 号		23-48 頁
蝦夷地の鱈漁業と文化財	共著	平成 16 年 11 月	月刊文化財 10 493 号 文化庁文化財部監修 第一法規		34-37 頁
「屏風絵を読むにあたって— 江差松山屏風」の読 み取り体験から—	共著	平成 18 年 3 月	「非文字資料研究」11 号 神奈川大学 21 世紀 COE プログラム		10-13 頁
『近世生活絵引』の作成を めざして—近世の北陸農村 と松前地漁村の人びとの暮 らしと生業—		平成 19 年 6 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム「人類文化 研究のための非文字資 料の体系化」研究推進会 議非文字資料研究 16		3-16 頁



著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
『日本近世生活絵引』北海道編	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議	菊池勇夫田島佳也	63-110 頁
日本近世生活絵引ー北陸編	共著	平成 20 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議	泉 雅博	1-33 頁
その他					
網野善彦『海と列島の中世』の解説	共著	平成 15 年 4 月	講談社学術文庫『海と列島の中世』		378-386 頁
近世日本の北方世界		平成 15 年 6 月	神奈川大学歴史民俗資料学研究科開設 10 周年記念		
近世蝦夷地の海産物 - アワビを中心に -	単著	平成 15 年 6 月	開拓記念館特別展講演(道方赤れんが)		
松前蝦夷地と商人		平成 15 年 11 月	北海道立文書館講座講演(札幌かでの 2.7 ビル)		
松前蝦夷地と商人の活動		平成 16 年 1 月	国立民族博物館報告		
はがき通信	単著	平成 16 年 6 月	日本歴史 673 号		
北海道における廻船問屋右近家と中村家の活躍と残像などについて		平成 16 年 9 月	第 7 回「西廻り」航路フォーラムの講演 福井県河野村		
蠣崎波響「夷酋列像を読み解く」シンポのコメンテーター		平成 17 年 3 月	国立民族学博物館		
「日本列島における人間ー自然相互関係の歴史的・文化的検討」(総合地球環境学研究所 研究代表 湯本貴和)のコアメンバー。アプローチ 3) 人間ー自然関係の復元と社会・経済システムの解明・北海道班代表		平成 18 年 4 月			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
「日本実業史博物館」資料の高度活用(研究代表 青木 睦)		平成 18 年 4 月			
『夷酋列像』の文化人類学的研究(研究代表大塚和義)		平成 18 年 4 月			
北海道新聞小樽支局による取材		平成 19 年 12 月	北海道新聞小樽版		
はがき通信		平成 20 年 1 月	日本歴史 716 号		
近世における煎海鼠の流通と中国輸出について		平成 20 年 5 月			
研究フォーラム「『夷酋列像』と道東アイヌ」の研究発表者・川上淳「クナシリ・メナシの戦いの評価」のコメンテーター(会場;道立北方四島交流センター)		平成 20 年 9 月			
研究報告「鯨漁業と森」の表題で発表		平成 20 年 10 月			
国立高雄海洋科技大学シンポ報告「近世初期の紀州漁法の全国的展開と海民移住」		平成 20 年 11 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 50 年 4 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 50 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会会員
昭和 52 年 8 月～現在に至る	北海道東北史研究会会員
昭和 53 年 5 月～平成 18 年 3 月	社会経済史学会会員
昭和 53 年 5 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 55 年 5 月～現在に至る	歴史学研究協議会会員
昭和 59 年 4 月～現在に至る	対外史研究会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	北海道東北史研究会地区委員、事務局長
昭和 62 年 11 月～現在に至る	経営史学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	歴史科学協議会会員
平成 3 年 12 月～現在に至る	物流史研究会会員
平成 5 年 5 月～現在に至る	日本史研究会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	神奈川大学日本常民文化研究所委託研究 6,000 千円（江戸時代鉱山絵図および鉱山旧記類の調査）(研究分担者)
平成 7 年 4 月～現在に至る	北海道東北史研究会地区委員
平成 7 年 4 月～現在に至る	北海道東北史研究会地区委員
平成 8 年 4 月～現在に至る	廻船文書調査研究会（日本福祉大学知多半島総合研究所）調査員
平成 8 年 4 月～現在に至る	北前船主右近家文書研究会（日本福祉大学知多半島総合研究）会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	記録史料研究会（千葉大学 代表 菅原憲二・小野正雄）会員
平成 10 年 8 月～現在に至る	北前船研究会（加賀市）会員
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	（国内共同研究）国立民族博物館「環日本海文化に関する人類学的研究：その環境、資源、交易をめぐって」
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A) 15,603 千円（中国江南沿海村落の民俗誌的研究）(研究代表者 神奈川大学外国語学部 福田アジオ 文科省基盤 (B)) (研究分担者)
平成 15 年 6 月～平成 15 年 6 月	第 56 回開拓記念特別展開連講演会「北・貝・道 - 海と陸と人びと」講演（近世蝦夷地の海産物 - アワビを中心に - ）講師

年月	内 容
平成 15 年 6 月～平成 15 年 6 月	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所開設 10 周年記念講座「ムラの民俗、クニの歴史 - 歴史民俗資料学から見える日本と世界 - 」報告 (近世日本の北方世界) 講師
平成 15 年 11 月～平成 15 年 11 月	北海道立文書館主催「文書でみる北海道史講座」講演 (松前蝦夷地と商人) 講師
平成 17 年 9 月～現在に至る	(国内共同研究) 大学独立法人 国立民族博物館「『夷酋列像』の文化人類学的研究 (研究代表大塚和義)」
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	(国内共同研究) 総合地球環境学研究所 研究代表 湯本貴和のコアメンバー。・北海道班代表「日本列島における人間－自然相互関係の歴史的・文化的検討」
平成 18 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究) 人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系 (～平成 20 年度まで) 共同研究員。「日本実業史博物館」資料の高度活用」(28,800 千円)
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	(国内共同研究) 総合地球環境学研究所 代表: 湯本貴和「日本列島における人間－自然相互関係の歴史的・文化的検討 (総合地球環境学研究所) 研究」(16,000 千円)
平成 19 年 4 月～現在に至る	加賀市北前船研究会顧問
平成 19 年 9 月～平成 20 年 3 月	(国内共同研究) 国立歴史民俗博物館「国立歴史民俗博物館所蔵模型 旧花田家番屋展示に関わるプロジェクト」
平成 20 年 1 月～平成 20 年 1 月	「日本の建築－旧花田家番屋と鯨漁場－」ギャラリートークギャラリートーク講師
平成 20 年 5 月～平成 20 年 5 月	韓国 M B C テレビ・インタビュー「江戸時代の煎海鼠流通について」(6 月放送)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部経済学科	職名 特任教授	氏名 近藤 好和	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
山中裕編『御堂関白記全註 釈 長和四年』	共著	平成 15 年 8 月	思文閣出版		
國學院大學日本文化研究所 編『律令法とその周辺』	共著	平成 16 年 3 月	汲古書院		
新横須賀市史資料編古代・ 中世Ⅰ	共著	平成 16 年 3 月	横須賀市		
栃木孝惟・長谷川端・山下 宏明・梶原正昭編『軍記文 学研究叢書 1 軍記文学とそ の周縁』	共著	平成 16 年 4 月	汲古書店		
小林一岳・則竹雄一編『戦 争Ⅰ 中世戦争論の現在』	共著	平成 16 年 11 月	青木書店		
騎兵と歩兵の中世史	単著	平成 17 年 1 月	吉川弘文館		
山中裕編『御堂関白記全註 釈寛弘三年』	共著	平成 17 年 2 月	思文閣出版		
五味文彦・櫻井陽子編『平 家物語図典』	共著	平成 17 年 4 月	小学館		
延慶本注釈の会編『延慶本 平家物語全注釈第一本(巻 一)』	共著	平成 17 年 5 月	汲古書院		
元木泰雄編『古代の人物 6 王朝の変容と武者』	共著	平成 17 年 6 月	清文堂		
源義経 - 後代の佳名を貽す 者か -	単著	平成 17 年 9 月	ミネルヴァ書房		
論文					
その他					
註釈『御堂関白記』(202) 長和五年五月十八日～二十 一日条	単著	平成 15 年 7 月	『古代文化』55 巻 7 号		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
『明月記』建暦元年十一月 二十五日～三十日条	単著	平成15年12月	『明月記研究』8号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む①冠と烏帽子	単著	平成16年1月	『本郷』49号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む②烏帽子のいろいろ	単著	平成16年3月	『本郷』50号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む③武士道という虚構	単著	平成16年5月	『本郷』51号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む④武士という戦士	単著	平成16年7月	『本郷』52号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑤武具の用語	単著	平成16年9月	『本郷』53号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑥天皇の装束	単著	平成16年11月	『本郷』54号		
『明月記』解説儀仗の劔・ 風流の束帯	単著	平成16年12月	『明月記研究』9号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑦歴史的体運用法	単著	平成17年1月	『本郷』55号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑧女房装束と十二単	単著	平成17年3月	『本郷』56号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑨腹巻鎧	単著	平成17年5月	『本郷』57号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑩的に刺さる矢	単著	平成17年7月	『本郷』58号		
註釈『御堂関白記』(217) 長和五年十月十六日～二十 一日条	単著	平成17年7月	『古代文化』57巻7号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑪馬と馬具	単著	平成17年9月	『本郷』59号		
連載(エッセイ)時代劇を 読む⑫有職故実	単著	平成17年11月	『本郷』60号		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 4 年 6 月～現在に至る	日本史研究会会員
平成 6 年 1 月～現在に至る	歴史学研究会会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 奨励研究 B
平成 11 年 10 月～現在に至る	伊東市史編纂委員会専門委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	横須賀市史編纂委員会専門委員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員
平成 16 年 4 月～平成 30 年 9 月	国立歴史民俗博物館共同研究員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 中島 三千男	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業評価に関するアンケートの実施	昭和 55 年 4 月 ～平成 16 年 3 月 31 日	授業において、学期末に必ず、学生に無署名で授業に関する評価、批判を書いてもらい、それを次年度（学期）の授業に生かすように努力している。毎年、講義内容は概ね好評だが、早口、黒板の字を丁寧にとの要望が出る。	
思考レベルでの授業参加	昭和 55 年 4 月 ～平成 16 年 3 月 31 日	授業において、授業内容に関するアンケート（質問事項）を書いてもらったり、自分の意見を書いてもらったりということを一年で 7～8 回（半期 3～4 回）行っている。一回に 10～15 分の時間をとって書いてもらっているが、その中で良い意見や少数意見については、次回の授業の時にマス・プリして配り、思考能力を高める工夫をしている（回収用紙は出席のチェックにもなっている）。	
小テストの実施	昭和 55 年 4 月 ～平成 16 年 3 月 31 日	授業効果をあげるために、3～4 回で一まとまりの講義が終わったあと、小テストを行っている。本来は講義の前後に自分で学習することが前提になっているのだが、多くの学生はただ授業の時だけに勉強する形になっている。そこで、次のステップに進む前に、それまでにやったことを、学生自身にまとめさせるのである。したがって小テストというより小まとめといった方が正確である。用紙を配布し、ノート等すべて参照可とし、またこの時だけは学生同志の私語を許し、教員も教室を回って質問に答える等のことをしている。	
講義の聴きかた、ノートの取り方の授業	昭和 55 年 4 月 ～平成 16 年 3 月 31 日	多くの学生は本来、高校までの間に身につけておかなければならない、講義の聴きかた、ノートの取り方を知らない。これではいくら良い授業をしてもその効果は薄い。そこで、第一回の小テストの時、うまく取っている学生のノートとそうでない学生のノートを借り、またそれぞれの学生の小テストの用紙をコピーして、次の時間に全員に配る。抽象的に話すより、実例で話すので学生はよくわかる。一般にノートを正しくとってれば、小テストの論述も良いものが出来るからである。1 で述べた学生の授業評価で、多くの学生が良かったと評価しているのは、実はこの「講義の聴きかた、ノートの取り方」を教えてもらったということである。悲しい事ではあるが。	
ディベートの採用	平成元年 4 月 ～平成 18 年 3 月 31 日	基礎ゼミナールで、毎月一冊の本をとりあげ、それに関する感想文を書かせ、それをもとにディスカッションやディベートを行っている。この基礎ゼミナールは本の読み方や感想文・レポートの書き方、またディスカッションの仕方などを学び、物事を深く考える能力を身につけさせることを目的としている。	
2 作成した教科書、教材			

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
概論 日本歴史	平成 12 年 5 月 1 日	吉川弘文館・佐々木潤之介、中島三千男他 4 人で編集（再掲）。最新の学問的成果にもとづき、コンパクトな日本史の概説を行い、大学の一般教養の概論テキストとしてや一般歴史愛好者の参考書ないしテキストとしても利用できるものとした。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
歴史をよむ	共著	平成 16 年 11 月	東京大学出版会		34-37 頁
植民地期中国東北地域にお ける宗教の総合的研究	共著	平成 17 年 3 月	平成 13 年度～平成 16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B - 1) 研究 成果報告書	木場明志他	
山城国大山崎荘の総合的研 究(第二次)	共著	平成 17 年 3 月	2002 年度～200 4 年度日本私立学校振 興、共済事業団「学術研 究振興資金」研究成果報 告書		
日中両国の視点から語る 植民地期満洲の宗教	共著	平成 19 年 9 月	柏書房	木場明志・程舒偉編	
論文					
旧樺太(南サハリン)神社 跡地調査報告	共著	平成 16 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』1 号(神奈川大 学 21 世紀 COE プログ ラム研究推進会議)		126-157 頁
海外神社跡地に見る景観の 変容	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議編『環境と景観の 資料化と体系化に向け て』		161-215 頁
旧南洋群島の神社跡地調査 報告	共著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進 会議『年報 人類文化研 究のための非文字資料 の体系化』第 2 号		239-322 頁
明治天皇の大喪と台湾 - 代 替わり儀式と帝国の形成 -	単著	平成 17 年 3 月	歴史と民俗、神奈川大学 日本常民文化研究所第 21 巻		7-52 頁
近代の皇室儀式における英 照皇太后大喪の位置と国民 統合	共著	平成 17 年 12 月	『人文研究』157 号、神 奈川大学人文学会		65-99 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
旧朝鮮の神社跡地調査とその 検討—全羅南道、和順郡 を中心に—	共著	平成 18 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』3号、神奈川大 学 21 世紀 COE プログ ラム推進会議		285-298 頁
旧満州国の「満鉄附属地神 社」跡地調査からみた神社 の様相	共著	平成 19 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研 究推進会議)(4)	津田良樹、 <u>中島三千男</u> 、堀内寛晃、尚 峰	
「『海外神社』跡地に関す るデータベース」構築につ いて	共著	平成 19 年 12 月	『環境に刻印された人間 活動及び災害の痕跡解 読』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム 研究推進会議 「人類文 化研究のための非文字 資料の体系化」研究成 果報告書	津田良樹 <u>中島三千男</u> 堀内寛晃	
海外神社跡地に見る景観 の変容とその要因(共著)	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム推進 会議編『環境に刻印 された人間活動およ び災害の痕跡解読』	<u>中島三千男</u> 津田良樹 富井正憲	55-93 頁
評論の言葉—海外神社の跡 地	単著	平成 20 年 7 月	『神奈川大学評論』創刊 60 号記念号		1 頁
その他					
空襲を記録することの意味	単著	平成 15 年 5 月	『戦争と民衆』第 50 号 (戦時下の小田原地方を 記録する会)		19 頁
講演「みんなで考えよう靖 国神社問題」		平成 15 年 7 月	2003 年度法政平和大学		
招聘講演「Shrines that Crossed the Sea:Shinto Shrines Abroad」		平成 15 年 10 月	Institute of Asian Research,UBC Centre for Japanese Research Conference		
講演「靖国神社と日本人の 未来」		平成 15 年 10 月	法政大学文学部史学科 学生会 2003 年度学術 大会		
副学長就任にあたって	単著	平成 15 年 11 月	『学園ニュースかなが わ』第 77 号		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「<靖国問題>を考える」		平成 15 年 11 月	歴史民俗資料学研究科 開設 10 周年記念講座		
調査プロジェクト紹介 「2003 年度大山崎調査報告」	単著	平成 15 年 12 月	常民研 NEWS22 号		
一年間のゼミ活動を終えて (受験生の感想、抜粋)	単著	平成 16 年 3 月	『The Monad』25 号 (神奈川大学外国語学部・ 基本科目部会)		3 頁
第 1 回 スピーチ・フェス テバル」の成功を祝う	単著	平成 17 年 3 月	報告書 『第 1 回神奈川 大学生による、外国語ス ピーチ・フェスティバル』 (神奈川大学経営学部・ 理学部)		1 頁
「総合学術研究推進委員 会」の発足にあたって	単著	平成 17 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 82 号		4 頁
「総合学術研究推進委員 会」の発足	単著	平成 17 年 6 月	『非文字資料研究』8 号(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議)		3 頁
山城国大山崎荘の総合的研 究	単著	平成 18 年 2 月	『日本歴史』693 号、日 本歴史学会(吉川弘文 館)		20-22 頁
靖国参拝批判の底流ー神大 教授が海外神社研究	単著	平成 18 年 8 月	『神奈川新聞』2006 年 8 月 12 日		
学長就任にあたってー大学 の帰趨を決める三年間を受 身にならず攻勢的にー	単著	平成 19 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 90 号		
父母懇談会における学長挨拶ー 志願者・受験者の確保 に力をお貸し下さいー	単著	平成 19 年 7 月	『後援会報』第 63 号		
成果発信の接続点に/神奈 川大学高大連携協議会会長	単著	平成 19 年 8 月	『神奈川新聞』2007 年 8 月 31 日		
新学長あいさつ	単著	平成 19 年 8 月	『神奈川大学フロンティ アクラブ会報』第 12 号		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
学長挨拶	単著	平成 19 年 8 月	『宮陵会報』(神奈川大 学校友会)第 84 号		
評価される大学/受験生や 社会が大学に期待するもの とは	共著	平成 19 年 12 月	『朝日新聞』2007 年 12 月 4 日	青山学院大学学長武藤元昭氏ほか 7 大学の学長・総長	
年頭にあってー「改革の 継続」と「入試対策」を車 の両輪にして、確かな地歩 を築こうー	単著	平成 20 年 1 月	『学園ニュースかなが わ』第 93 号		
世界に、そして未来へー神 奈川大学 21 世紀 C O E プ ログラムの歩みを振り返 るー	単著	平成 20 年 3 月	『非文字資料研究』(神 奈川大学 21 世紀 C O E プログラム「人類文化研 究のための非文字資料 の体系化」研究推進会議 19 号		
私の宝物ー二つのミニコミ 誌ー	単著	平成 20 年 3 月	『神奈川大学資格教育課 程通信』第 25 号		
教学に関わる短期の課題に ついて	単著	平成 20 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 94 号		
伝統と革新	単著	平成 20 年 5 月	『教育は人を造るにあ りー米田吉盛の生涯ー』 (神奈川大学米田吉盛伝 編集委員会、御茶ノ水書 房)		
神奈川大学創立 80 周年記 念式典挨拶ー創立 80 周年 を迎えてー	単著	平成 20 年 6 月	『学園ニュースかなが わ』第 95 号		
大学と人材育成/「新しい 時代を拓く」人材の育て方 とは	共著	平成 20 年 7 月	『朝日新聞』2008 年 7 月 28 日	青山学院大学学長伊藤定良氏他 7 大 学の学長	
植民地時代の神社の碑/蔚 山で発見、保存の声も/佐 賀の学芸員が判読		平成 20 年 7 月	『西日本新聞』2008 年 7 月 21 日		
『非文字資料研究』の発刊 を祝う	単著	平成 20 年 9 月	『非文字資料研究』(20)		2 頁
「偏差値」をめぐる複眼的 視点について	単著	平成 20 年 10 月	『学園ニュースかなが わ』第 97 号		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
海外神社語る設計図/奈良 の技師宅から 20 枚		平成 20 年 12 月	『朝日新聞』2008 年 12 月 3 日、夕刊(関西版)		
年頭のあいさつ 「下」か らの力	単著	平成 21 年 1 月	『学園ニュースかなが わ』98 号		
招聘講演 海外神社とは何 か		平成 21 年 3 月			
招聘講演 海外神社とは何 か		平成 21 年 3 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	史学研究会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	歴史科学協議会会員
昭和 51 年 5 月～現在に至る	日本歴史学協会会員
昭和 51 年 5 月～現在に至る	日本歴史学協会学問思想の自由・建国記念の日問題特別委員会委員
昭和 59 年 1 月～現在に至る	神奈川地域史研究会会員
昭和 59 年 1 月～現在に至る	神奈川地域史研究会運営委員
平成 3 年 4 月～平成 16 年 3 月	社団法人神奈川県高等学校教育会館・教育研究所研究協力委員
平成 4 年 12 月～現在に至る	日本近代仏教史研究会会員
平成 4 年 12 月～現在に至る	日本近代仏教史研究会運営委員
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B) (植民地期中国東北地域における宗教の総合的研究)(研究分担者)
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本私立学校振興・共済事業団(学術研究振興資金) 5,840 千円 (山城国大山崎荘の総合的研究)(研究代表者)
平成 15 年 7 月～平成 16 年 3 月	文部科学省 61,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 15 年 9 月～現在に至る	日本歴史学協会歴史教育問題特別委員
平成 15 年 9 月～現在に至る	日本歴史学協会学会選出委員(日本史研究)
平成 16 年 1 月～平成 17 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	文部科学省 75,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	文部科学省 95,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	文部科学省 88,940 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 福田 アジオ	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業内容の改善	平成 20 年 4 月 7 日 ~平成 20 年 12 月 10 日	( 授業科目：博物館実習 2 ) ごく少数の受講者である現状を有効に活用するための工夫をした。特に、見学実習として訪問する博物館・資料館を、小規模館に絞り、学芸員から直接講話及び案内を得られるように依頼し、実施した。結果的に、学生たちの博物館理解は深まり、実習としての実をあげることができた。	
授業方法の改善	平成 20 年 4 月 15 日 ~平成 20 年 7 月 10 日	( 授業科目：日本民俗学 ) 専門科目であっても受講する学生の基礎的な知識に欠け、講述での講義では理解できない内容は多いことが分かり、ほぼ毎回の授業に、関連資料をプリントして配布し、説明をした。また授業のはじめに前回の授業内容を要約して示して理解が定着するようにした。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
戦う村の民俗誌	単著	平成 15 年 9 月	歴史民俗博物館振興会		
環境・地域・心性－民俗学 の可能性	共著	平成 16 年 9 月	岩田書院		
寺・墓・先祖の民俗学	単著	平成 16 年 10 月	大河書房		
精選日本民俗辞典	共著	平成 18 年 3 月	吉川弘文館		692 頁
中国江南沿海村落民俗誌	共著	平成 18 年 3 月			265 頁
歴史探索の手法－岩船地蔵 を追って	単著	平成 18 年 5 月	ちくま新書、筑摩書房		
結衆・結社の日本史(結社 の世界史 1)	共著	平成 18 年 7 月	山川出版社		
古村落の沈思－中国古村落 保護(西塘)国際高峰論壇 論文集	共著	平成 19 年 6 月	上海辞書出版社(中国)	王恬主編、	
つながる日本海－新しい環 日本海文明圏を築くために	共著	平成 19 年 7 月	現代企画室	武藤誠・北川フラム編、鶴見俊輔、古 厩忠夫、藤本強、水野敬三郎、秋道 智彌、福田アジオ他	1-306 頁
柳田国男の民俗学(歴史文 化セレクション)	単著	平成 19 年 9 月	吉川弘文館		1-282 頁
東西交流の地域史－列島の 境目・静岡	共著	平成 19 年 12 月	(株)雄山閣	青木祐一、加藤理文、北村啓、橋本 誠一、福田アジオ、向坂鋼二、他	1-252 頁
日本近世生活絵引東海道編	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム研究推 進会議	富澤達三・中村ひろ子・福田アジオ・ 山本志乃	1-138 頁
Theories and Methods in Japanese Studies : Cur- rent State and Future Developments	共著	平成 20 年 2 月	B o n n University Press	Hans Dieter Olschleger ed, Ronald Dore, Kuwayama Takami, Sepp Linhart, Fukuta Ajo 他	1-358 頁
東アジア生活絵引中国江南 編	共著	平成 20 年 2 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム研究推 進会議	金貞我、佐々木睦、鈴木陽一、福田 アジオ	1-154 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
東アジア生活絵引朝鮮風俗 画編	共著	平成 20 年 2 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推 進会議	金貞我、中野泰、福田アジオ	1-177 頁
日本民俗学講演録	単著	平成 20 年 2 月	成都時代出版社		1-271 頁
論文					
誤読しているのはだれか	単著	平成 15 年 5 月	(日本民俗学会)『日本 民俗学』234 号		145-151 頁
生活画像資料と文献書誌 データベースの作成	単著	平成 16 年 3 月	『年報人類文化研究の ための非文字資料の体 系化』1 号		6-12 頁
画像資料としての素人絵	単著	平成 16 年 12 月	『年報人類文化研究の ための非文字資料の体 系化』2 号(神奈川大学 21 世紀 C O E プログ ラム研究推進会議)		1-16 頁
ニワバとジミョウー和田正 洲学説から学ぶー	単著	平成 18 年 2 月	『民俗』194、195 号(相 模民俗学会)		10-11 頁
市町村合併と伝承母体ーそ の歴史的概観ー	単著	平成 18 年 2 月	『日本民俗学』245 号 (日本民俗学会)		3-17 頁
民俗学と歴史学をつなぐも のー網野善彦の功績ー	単著	平成 18 年 3 月	『神奈川大学評論』53 号		57-64 頁
その他					
村落領域論	単著	平成 17 年 2 月	『民間文化論壇』141 号 (中国民間文芸家協会)		78-89 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 53 年 5 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本文化人類学会（日本民族学会）会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 57 年 11 月～現在に至る	比較家族史学会会員
平成 5 年 3 月～現在に至る	日本民俗建築学会会員
平成 13 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会評議員・理事
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A) 18,600 千円（中国江南沿海村落の民俗誌的研究）(研究代表者)
平成 16 年 4 月～現在に至る	東京都教育委員会 東京都文化財保護審議会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	山梨県教育委員会 山梨県文化財保護審議会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	横浜市教育委員会 横浜市文化財保護審議会委員
平成 17 年 5 月～平成 18 年 4 月	日本文化人類学会（日本民族学会）評議員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 北原 糸子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
日本近世災害情報論	単著	平成 15 年 5 月	塙書房		396 頁
善光寺地震に学ぶ	共著	平成 15 年 7 月	信濃毎日新聞社		117 頁
日本災害史	共著	平成 18 年 10 月	吉川弘文館		196-260,270-304 頁
論文					
地震の痕跡と『名所江戸百景』の新しい読み方	共著	平成 16 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		62-104 頁
災害と写真メディア - 1894 年庄内地震のケース スタディ -	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		75-95 頁
東京府における明治天皇聖 蹟 - 指定と解除の歴史 -	単著	平成 17 年 3 月	「国立歴史民俗博物館研 究報告」121 集		285-338 頁
最近の災害史研究から - 世 界と日本 -	単著	平成 18 年 3 月	「京都歴史災害研究」(5 号)		11-20 頁
メディアとしての災害写真	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		75-95 頁
関東大震災の写真(東京都 慰霊堂保管)について	単著	平成 20 年 3 月	立命館大学・神奈川大学 21 世紀 COE プログラ ム研究推進会議		
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 46 年 4 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 60 年 9 月～現在に至る	歴史地震研究会会員
平成 10 年 10 月～現在に至る	東京都文化財保護審議会委員
平成 17 年 10 月～現在に至る	中央区文化財保護審議委員
平成 19 年 1 月～現在に至る	財団法人地球科学技術総合推進機構主幹研究員
平成 19 年 3 月～平成 20 年 3 月	(国内共同研究)(財)地球科学技術総合推進機構「史的考察から導かれる「避難」の実践と分析に関する研究」
平成 19 年 7 月～現在に至る	中央防災「災害教訓の継承に関する専門調査会」委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 中村 ひろ子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
衣と風俗の100年	共著	平成15年10月	ドメス出版		242-270頁
「日本近世生活絵引」	共著	平成20年3月	神奈川大学COEプログラム研究推進会議		
『実験展示「あるくー身体 の記憶」をつくる』	共著	平成20年3月	神奈川大学COEプログラム研究推進会議		
論文					
博物館資料は誰のもの	単著	平成16年10月	神奈川大学COE研究推進会議「非文学資料研究」6		
博物館資料の現在	単著	平成17年3月	神奈川大学歴史民俗資料学研究科「歴史民俗資料学研究」10		
実験展示の企て	単著	平成19年9月	『非文字資料研究』(神奈川大学COEプログラム研究推進会議)17		
対談「非文字資料研究の 新地平」	共著	平成19年12月	『非文字資料研究』(神奈川大学COEプログラム研究推進会議)18		
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 40 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 50 年 10 月～現在に至る	日本民具学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	横浜歴史博物館資料収集委員会専門委員
平成 10 年 4 月～現在に至る	東京都文京区文化財保護審議会会長
平成 11 年 4 月～現在に至る	八王子市文化財保護審議会委員
平成 11 年 4 月～現在に至る	東京都江東区文化財保護審議会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	東京都墨田区文化財保護審議会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	文化庁文化審議会文化財分科会専門委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	相模原市博物館協議会委員
平成 13 年 10 月～現在に至る	日本民具学会理事
平成 16 年 6 月～現在に至る	横浜市文化財保護審議会委員
平成 16 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会理事
平成 18 年 4 月～現在に至る	神奈川県文化財保護審議会委員
平成 18 年 4 月～現在に至る	小田原市文化財審議会委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前田 禎彦	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業評価に関するアンケートの実施	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	(日本史)前期と後期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望を反映するように授業を改善した。	
授業評価に関するアンケートの実施	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	(日本史)(日本史(教職))前期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望が反映するように授業を改善した。	
授業評価に関するアンケートの実施	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	(日本史)(日本史(教職))前期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望が反映するように授業を改善した。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『氷見市史』1 通史編 古代・中世・近世 第四章 『万葉集』と布勢水海 第 一節、第五章 平安時代の 社会と氷見	共著	平成 18 年 3 月	氷見市史編さん委員会		92-103,118-127 頁
論文					
「看督長見不注進状」(九条 家本『延喜式』紙背文書) に関する基礎的検討	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』157号 (神奈川大学人文学会)		101-121 頁
看督長小考 - 撰関期の官司 と社会集団 -	単著	平成 19 年 3 月	『国史学』第 191 号 (国史学会)		3-26 頁
その他					
書評 佐藤全敏著『東大寺 別当の成立』	単著	平成 17 年 3 月	『法制史研究』54(法 制史学会)54		152-154 頁
二〇〇四年度日本史研究会 大会報告批判 古代支部会 吉川聡報告に関する覚書	単著	平成 17 年 4 月	『日本史研究』512号 (日本史研究会)(512)		25-28 頁
看督長小考 - 官司と社会 集団 - (2005 年度國學院 大学国史学会古代史部会報 告)	単著	平成 17 年 5 月	國學院大学国史学会(於 國學院大学)		
古代地域史研究と出土文字 資料 - 「加賀郡 示札」の 史料性格 -	単著	平成 17 年 9 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議編『非文字資料研 究』9(9)		18-19 頁
書評 長谷山彰著『日本古 代の法と裁判』	単著	平成 18 年 3 月	『法制史研究』55(法 制史学会)55		155-159 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
マルチ言語版 絵巻物による 日本常民生活絵引第2巻 (本文編)		平成19年3月	神奈川県 21世紀 COEプログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議		
マルチ言語版 絵巻物による 日本常民生活絵引第2巻 (語彙編)		平成19年6月	神奈川県 21世紀 COEプログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議		
オリジナル版『生活絵引』 の編纂とその意義(神奈川県 大学21世紀COEプロ グラム 第3回国際シンポ ジウム「場の記憶・からだ の記憶 非文字資料研究の 新地平」セッション1マル チ言語版『日本常民生活絵 引』の編纂刊行)	単著	平成20年2月	神奈川県 21世紀C OEプログラム 第3 回国際シンポジウム「場 の記憶・からだの記憶」 (神奈川県横浜キャン パス)		
マルチ言語版 絵巻物による 日本常民生活絵引第1巻 (本文編)		平成20年2月	神奈川県 21世紀 COEプログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議		
マルチ言語版 絵巻物による 日本常民生活絵引第1巻 (語彙編)		平成20年2月	神奈川県 21世紀 COEプログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	史学研究会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	京都民科歴史部会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	古代学協会会員
平成 15 年 5 月～現在に至る	史学会会員
平成 16 年 11 月～現在に至る	続日本紀研究会会員
平成 18 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会会員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 奨励研究 ( C ) 250 千円 ( 平安貴族の都市的な居住と住宅の総合分析 )( 研究分担者 )
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 奨励研究 ( C ) 250 千円 ( 平安貴族の都市的な居住と住宅の総合分析 )( 研究分担者 )

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経営学部国際経営学科	職名 教授	氏名 廣田 律子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 中国復旦大学短期語学研修及長期留学の企画実施  メディア教材制作プロジェクト  スピーチコンテスト中国語発表者指導 中国語検定試験参加希望者向け補習の実施	平成元年 4 月 1 日 ~平成 19 年 3 月 31 日  平成 17 年 4 月 ~平成 19 年 3 月	平成元年から 18 年まで中国復旦大学での短期語学研修及長期留学を企画実施し 200 名を超える学生が参加した。この間神奈川大学経営学部と復旦大学歴史系との交流協定の締結等にも関わり、学部間の人的学術的交流を進めた。  中国湖南省を取材地とし、学生による取材及ビデオ作品の制作発表までの一連の作業に関わり、指導した。2006 年度作品「農村の経済」、2007 年度作品「Dream」は第 3 回、第 4 回湘南映像祭に入賞した。また、2007 年度実施の中国語学科の作品との合同発表会は、2007 日中文化・スポーツ交流年の事業として認定された。  経営学部開催のスピーチコンテストにおいて、中国語発表者の指導を行なった。  年 3 回実施の中国語検定試験参加希望者向けに、リスニングの補習を年間を通して行なっている。	
2 作成した教科書、教材 メディア教材制作プロジェクト作品	平成 18 年 4 月	至る現在。メディア教材制作プロジェクトの作品を教材として活用。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
鬼之来路(中文)	単著	平成17年10月	中華書局		253頁
論文					
説唱と小説の間 - 鼓詞と 『海遊記』 -	単著	平成16年3月	『国際経営論集』第27 号		99-121頁
鬼神假面的造形 - 従日本 与中国的事例看呪眼的表現 (中文)	単著	平成17年3月	『域外民俗学鑑要』寧 夏人民出版社		228-246頁
来訪する鬼と翁	単著	平成17年5月	『折口信夫・釋迦空 - そ のひとと学問』おうふう		219-287頁
祭祀儀礼の中の神話	単著	平成17年8月	『神話・象徴・文化』 楽浪書院		233-262頁
ヤオ族還家愿儀礼調査ノー ト - 湖南省藍山県馮家の事 例から -	単著	平成18年5月	『神話・象徴・文化』 (楽浪書院)2		p.213-p.246頁
中国の祭りと仮面劇に來臨 する神々の物語 - 將軍と神 兵 -	単著	平成18年10月	『日本人の異界観』 (せりか書房)		p.395-p.421頁
「中国湖南省のヤオ族の儀 礼に見出す道教の影響 馮 家実施の還家愿儀礼調査か ら」	単著	平成19年11月	『東方宗教』(日本道 教学会)(110)		57-81頁
「研究ノート 鬼神につい て」	単著	平成20年1月	『歴史と民俗』神奈川大 学日本常民文化研究所 論集(平凡社)(24)		219-233頁
「モーションキャプチャに よる芸能の定量比較研究」	共著	平成20年3月	『神奈川大学 21世紀 COEプログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究成 果報告書 身体技法・感 性・民具の資料化と体系 化』(「人類文化研究 のための非文字資料の 体系化」研究推進会議)	廣田律子 海賀孝明 岡本浩一	31-94頁



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
その他					
神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化の研究 のための非文字資料体系 化」事業推進担当者		平成 15 年 9 月	神奈川大学		
鬼神の面	単著	平成 15 年 12 月	非文字資料研究 No.2		18-19 頁
中国の善鬼 - 江南の仮面劇 から -	単著	平成 16 年 1 月	アジア遊学 59 号		59-67 頁
中国石郵村の追儺行事に登 場する鬼と翁の身体技法に 関する調査	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学 COE 年報 『人類文化研究のための 非文字資料の体系化』1		46-54 頁
『海遊記』1	単著	平成 16 年 3 月	麒麟 13 号		48-58 頁
モーションキャプチャー収 録	単著	平成 16 年 5 月	わらび座デジタルア ートファクトリー		
三番叟と中国江南の土地神 を繋ぐもの	単著	平成 16 年 5 月	『鼎』第 7 号		
仮面と民俗 - 中国江南の呪 眼をもつ仮面から -	単著	平成 16 年 5 月	『よみがえる四川文明 三星堆と金沙遺跡の秘 宝展 図録』 共同通信 社		161-166 頁
翁の語りに見える中国と日 本	単著	平成 16 年 5 月	アジア遊学 63 号		95-105 頁
湖南省新寧県瑶族盤王節調 査	単著	平成 16 年 10 月	湖南省新寧県		
中国湖南省新寧県瑶族「盤 王節」調査報告	単著	平成 17 年 1 月	COE 年報『人類文化 研究のための非文字資 料の体系化』2		323-339 頁
「説唱芸能<唱南游>の語 り」続編Ⅳ	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学経営学部十 七世紀文学研究会「麒 麟」第 14 号		13-56 頁
祭りに来訪する神 - 中国湖 南省瑶族の祭りから -	単著	平成 17 年 6 月	東アジア比較文化研究 4		64-82 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
呪術としての鉄火	単著	平成 17 年 8 月	『薩歳の祭り 中国貴 州省南部凝族の祭祀及 び神観念に関する研究 調査報告書』 國學院 大学 21 世紀 COE プロ グラム研究報告書Ⅲ		153-159 頁
身体技法と祭祀芸能 - 祭祀 者の動きと人形の動きから -		平成 17 年 11 月	神奈川大学 COE プログ ラム第一回国際シンポ ジウム「非文字資料とは 何か - 人類文化の記憶 と記録」		
デジタル技術による東アジ ア芸能比較研究試論	単著	平成 18 年 2 月	18 世紀東アジアの公演 文化		291-308 頁
モーションキャプチャを使 った芸能比較研究の試み	共著	平成 18 年 3 月	神奈川大学 COE 年報 『人類文化研究のための 非文字資料の体系化』3		p.188-p.212 頁
身体技法としての芸能とそ の継承	単著	平成 18 年 3 月	『歴史と民俗』22		p.85-p.100 頁
説唱芸能<唱南游>の語り 続編Ⅴ	単著	平成 18 年 3 月	麒麟 15 号		39-67 頁
モーションキャプチャーを使 った日中芸能比較研究の 試み	共著	平成 18 年 3 月	比較日本学研究セン ター研究年報 第 2 号 お茶の水女子大学比 較日本学研究センター		83-90 頁
モーションキャプチャを使 った芸能記録化及比較研究 の試み	単著	平成 18 年 5 月	『韓・中・日無形文化遺 産フォーラム』		p.183-p.184 頁
日本伝統戯曲与中国民俗芸 能之継承関係 - 与応用立体 座標法解釈 -	単著	平成 18 年 12 月	戯曲教育回顧与展望国 際学術研討会		p.1-p.31 頁
「鼓詞陳十四夫人伝描絵 的地獄之行 - 血池地獄考」 (中文)	単著	平成 19 年 8 月	2007 中国靖江宝卷文化 国際学術研討会		
「荒ぶる神」と日中の祭祀 儀礼	単著	平成 19 年 12 月	『東方』 (東方書店) (322)		2-7 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
日・中・韓民俗文化遺産円 卓会議「“わざ・技”の文 化資源化 危機に瀕する民 俗文化の保存継承」コー ディネイター		平成 20 年 3 月			
野村伸一編著『東アジアの 祭祀伝承と女性救済 目 録救母と芸能の諸相』 書評	単著	平成 20 年 5 月	『中国研究月報』(社団 法人中国研究所)Vol.62 No.5 (No.723) 2008 年 5 月号		40-42 頁
科学研究費補助金基盤研 究(B)課題番号 20401013 「ヤオ族の儀礼と儀礼文献 の総合的研究」ヤオ族度戒 儀礼調査		平成 20 年 11 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
～現在に至る	(国際共同研究)「中国江南村落の民俗誌的研究」
昭和 57 年 4 月～現在に至る	日本口承文芸学会会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	日本民族学会会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	中国民話の会会員
昭和 61 年 12 月～現在に至る	中国民俗研究会会員
昭和 61 年 12 月～現在に至る	中国民俗研究会事務局長
昭和 62 年 6 月～現在に至る	日本民俗学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	日本藝能学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	東南アジア芸能研究会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	中国芸能研究会会員
平成 3 年 12 月～現在に至る	日中建築技術交流会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本宗教学会会員
平成 10 年 6 月～現在に至る	日本昔話学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	東アジア比較文化国際会議会員
平成 12 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A)(2) (中国江南農村村落の民俗誌的研究)(研究分担者)
平成 13 年 4 月～現在に至る	アジア民族文化学会会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	平塚市文化財団評議員
平成 14 年 4 月～平成 20 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム (人類文化研究のための非文字文化資料の体系化)(研究分担者)
平成 16 年 1 月～現在に至る	日本民俗学会第 24 回研究奨励賞審査委員会委員長
平成 16 年 12 月～現在に至る	日本民俗学会推薦日本学術会議会員候補者
平成 17 年 4 月～現在に至る	独立行政法人日本学術振興会審査委員
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 A (神話のコスモロジー)(研究分担者)

年月	内 容
平成 17 年 7 月～平成 19 年 6 月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員
平成 18 年 2 月～現在に至る	道教学会会員
平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月	(受託研究)独立行政法人日本学術振興会「ヤオ族の儀礼と儀礼文献の総合的研究」(12,800 千円)
平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究(B) 12,800 千円 (ヤオ族の儀礼と儀礼文献の総合的研究)(研究代表者)